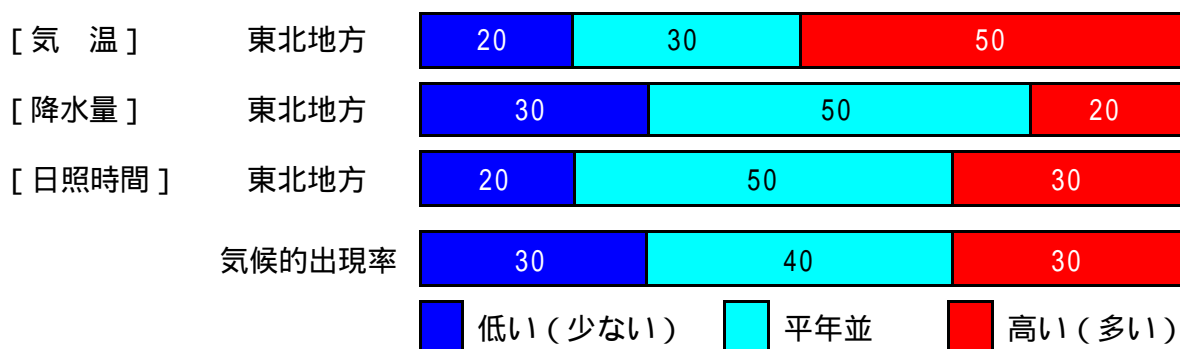


# 東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：7 月 31 日～8 月 30 日）

平成 11 年 7 月 30 日 仙台管区气象台

## 1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[ 気 温 ]: 東北地方は「高い」になる可能性が大きく、その確率は 50％です。「平年並」になる可能性は次に大きく、その確率は 30％です。「低い」になる可能性は小さく、その確率は 20％です。

[ 降 水 量 ]: 東北地方は「平年並」になる可能性が大きく、その確率は 50％です。「少ない」になる可能性は次に大きく、その確率は 30％です。「多い」になる可能性は小さく、その確率は 20％です。

[ 日照時間 ]: 東北地方は「平年並」になる可能性が大きく、その確率は 50％です。「多い」になる可能性は次に大きく、その確率は 30％です。「少ない」になる可能性は小さく、その確率は 20％です。

## 2. 予想される天候の特徴（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

### 向こう 1 か月

東北地方は、太平洋高気圧に覆われて、平年同様晴れの日が多い見込みです。しかし、前線や低気圧の影響を受け、一時天気がぐずつくでしょう。

平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は約 16 日です。

### 各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 向こう 1 週間は、太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日が続くでしょう。  
(7 月 31 日～8 月 6 日) 明日(31 日)、日本海側北部では太平洋高気圧の回りをまわる南からの湿った気流の影響で、雨の降る所がある見込みです。

平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は約 4 日です。詳細は週間天気予報を参照して下さい。

2 週目…………… 太平洋高気圧に覆われて、平年同様晴れの日が多いでしょう。一時前線  
(8 月 7 日～8 月 13 日) や低気圧の影響を受け、天気がぐずつくでしょう。

平均気温は高い見込みです。

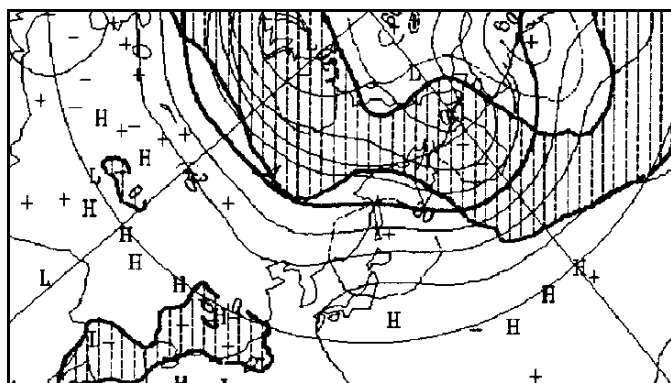
平年の晴れ日数は約 4 日です。

3～4 週目…………… 太平洋高気圧に覆われて、平年同様晴れの日が多いでしょう。一時前線  
(8 月 14 日～8 月 27 日) や低気圧の影響を受け、天気のぐずつくでしょう。

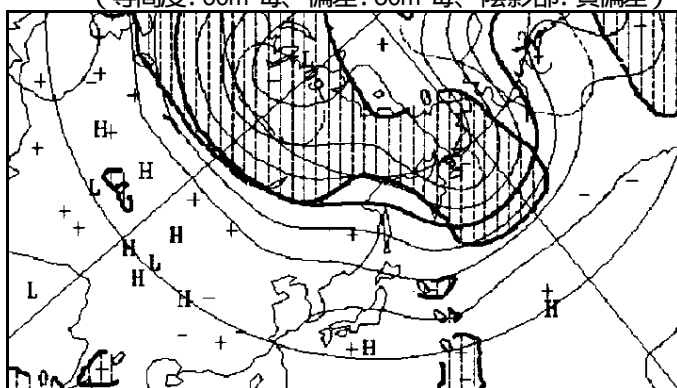
平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は約 8 日です。

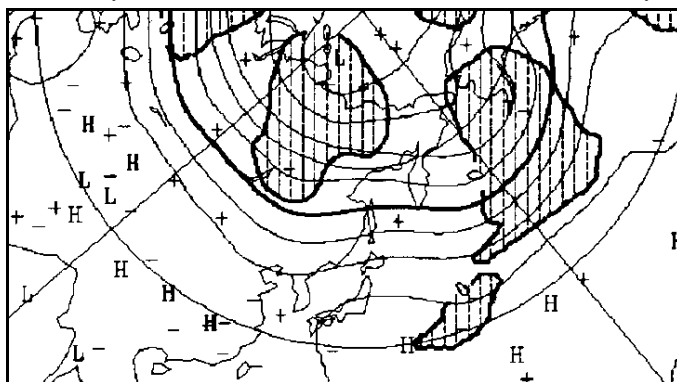
予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



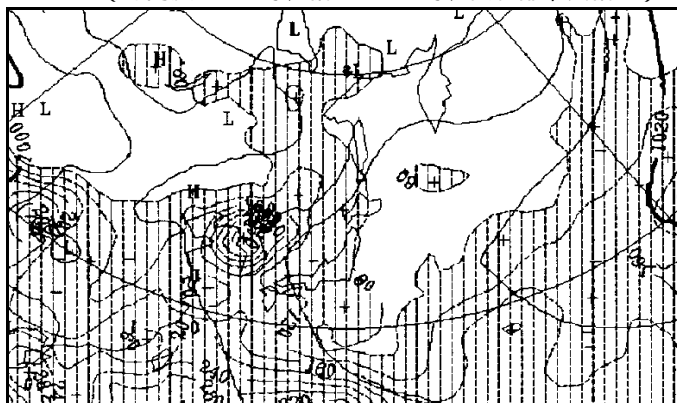
月平均の 500hPa 高度・偏差  
(等高度: 60m 毎、偏差: 30m 毎、陰影部: 負偏差)



2 週目の 500hPa 高度・偏差  
(等高度: 60m 毎、偏差: 60m 毎、陰影部: 負偏差)



3 ~ 4 週目の 500hPa 高度・偏差  
(等高度: 60m 毎、偏差: 60m 毎、陰影部: 負偏差)



月平均の地上気圧と降水量  
(等圧線: 4hPa 毎、降水量: 40mm 毎、陰影部: 80mm 以上)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は広く正偏差に覆われ、その中心は北海道の北に予想される。2 週目、3 ~ 4 週目も、日本付近は太平洋高気圧の勢力下で、弱い正偏差に覆われる。

夏型の安定した晴天をもたらす太平洋高気圧は、月平均で見ると東北部から九州にかけて張り出す予想となっている。

2 週目は、北への張り出しはやや弱まるが、西への張り出しは強まり、中国大陸東岸まで広く覆う。

3 ~ 4 週目は、西への張り出しも月平均と同程度に弱まる見込みで、太平洋高気圧の回りをまわって暖湿な気流の流れ込む可能性がある。

また、2 週目以降は北海道を中心に東西流の卓越する流れの場となり、低気圧や前線の影響を受ける可能性がある。

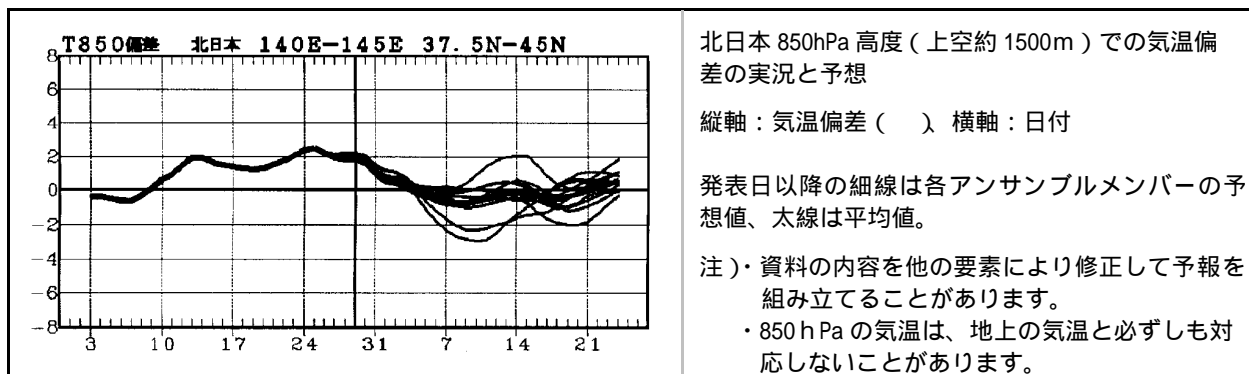
・ 地上気圧と降水量

月平均では、太平洋高気圧が東海上から日本付近に張り出している。また、2 週目以降はオホーツク海の南海上に高圧部を予想しており、月平均でははっきりしていないが高圧部が見られる。

月平均図でのまとまった降水域は、日本のはるか南海上と朝鮮半島付近に見られるが、これは 1 週目（図略）に予想される降水域とほぼ同じ。2 週目以降（図略）は、東北地方にも弱い降水域が広がる予想となっている。

### 3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

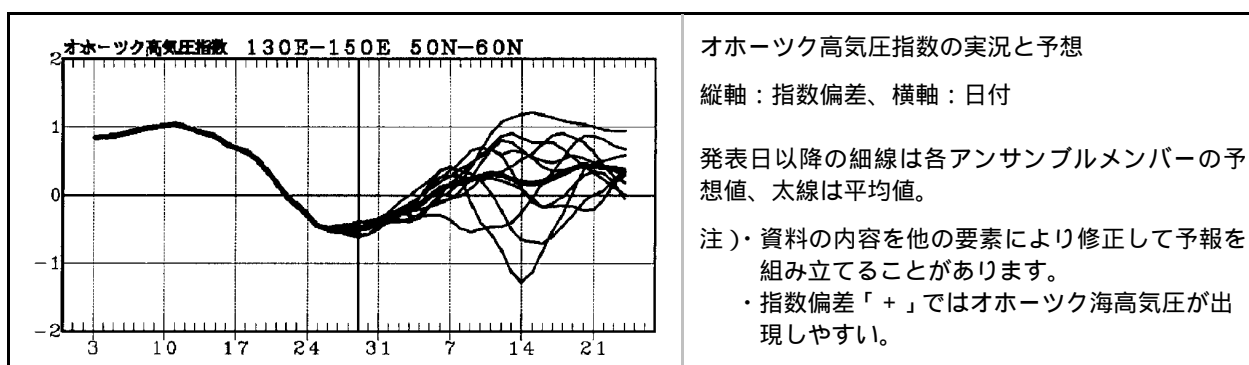
北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると現在が高極で今後下降し、2 週目以降は平年並が予想される。ただ、2 週目には両極にバラつくメンバーも見られる。



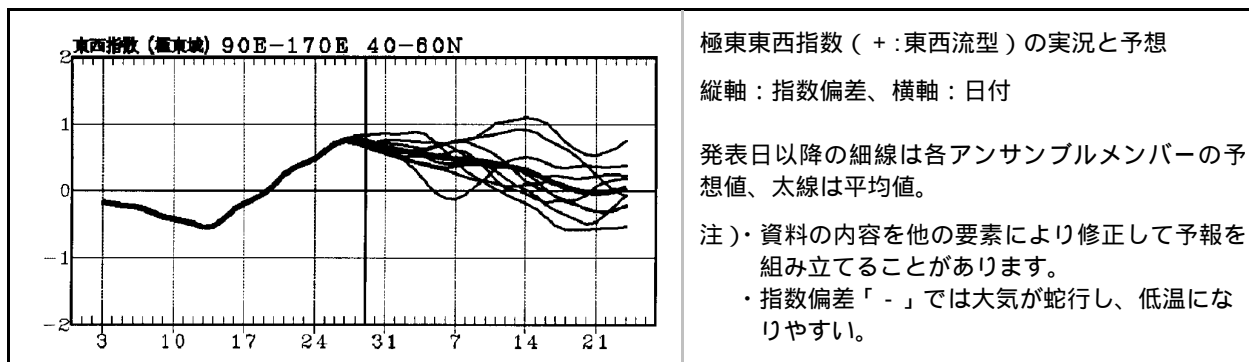
注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

### 4. 各種循環指数の時系列

オホーツク高気圧指数は、アンサンブルメンバーの平均でみると現在平年を下回っているが、今後は上昇傾向を示す。ただ、2 週目以降はバラツキが非常に大きい。



また、極東域の東西指数は、アンサンブルメンバーの平均でみると現在が高極で今後下降し、3 ~ 4 週目には平年並が予想される。ただ、2 週目以降は両極にバラつくメンバーも見られる。

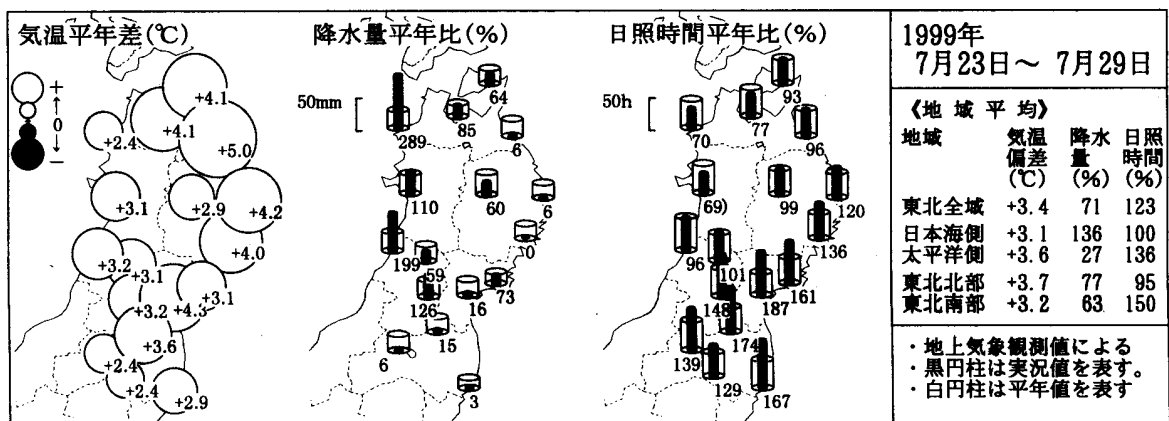


## 5. 最近1週間(7月23日~7月29日)の天候の経過

仙台管区气象台の発表によると、梅雨明けは東南北部が7月24日頃(平年7月23日頃)、東北北部が7月26日頃(平年7月26日頃)だった。このため、期間の初めは前線の影響で雨となったが、その後は東南北部から次第に太平洋高気圧に覆われ、晴れて暑い日が続いた。期間の終わりには台風第5号からかわった熱帯低気圧の影響や太平洋高気圧の回りをまわって暖湿な気流が入ったため、各地で雷雨となった。

平均気温は、東北全域の平年差が+3.4度と高く、仙台管区气象台は7月27日に「高温に関する東北地方気象情報」を発表し、各地方气象台でも情報が発表された。降水量は、日本海側で前線の影響や太平洋高気圧の回りをまわって暖湿な気流が入ったため平年の136%と多く、太平洋側では平年の27%と少なかった。日照時間は、東南北部で梅雨明け後太平洋高気圧に覆われやすかったため平年の150%と多かったが、東北北部は平年の95%となった。

また、この期間は気温に関する極値更新が相次いだ。7月29日までの7月の日最高気温の高い値は、若松 36.7度(27日)、新庄 36.9度(27日)、秋田 36.4度(27日)で、7月の日最低気温の高い値は、盛岡 24.3度(28日)とそれぞれ7月として第1位を更新した。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)